

伊勢湾台風から50年 その教訓を

平成21年度津市水防訓練を実施

津消防タイムズ

第41号



プランター工法を行う参加者

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町 2276

編集 消防総務課
企画広報担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

協力 津市防火協会

火災などの
お問い合わせ
224-1881
救急医療情報案内
256-1199

津市水防訓練に住民ら
約七百人が参加

平成二十一年度津市水防訓練が、去る五月三十一日(日)に津市木造町雲出川緑地公園内において実施されました。天候が心配される中、自主防災協議会や地区住民を始め、関係機関を含む総勢約七百人が参加しました。

今年、伊勢湾台風から五十年という節目の年にあたります。この台風により、全国各地で約五千人の方々が尊い命を亡くされており、被害者への哀悼の意を表し、訓練開始前に参加者全員で黙とうを捧げました。

この訓練では、ゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な集中豪雨など、近年、災害の態様も多様化していることを踏まえ、地下道入口への浸水を防止する工法、マンホールから噴出する水を防止する工法、プランターや段ボール等の家庭にあるものを利用して行う住宅浸



巡視を行う松田市長

水対策を取り入れて行われました。また、参加者全員で行った百メートルの積土の工法訓練では、皆さんが暑い中一丸となり、熱心に取り組んでいました。

松田直久市長は、このような訓練を実施できたことは大変意義深く、市民の安全・安心を預かる私どもにとりまして、大変心強く思います。と講評を述べました。(小坂健介)



黙とうを捧げる参加者

津・松阪合同水難訓練を実施

津市消防本部と松阪地区広域消防組合消防本部は合同で水難救助訓練を六月二日（火）雲出川流域で実施しました。この訓練は両消防本部が雲出川や伊勢湾を介して隣接しており、水難救助事案に対する有事即応体制と連携の強化を図ることを目的に、両消防本部から水難救助隊など六十二人が参加して行われました。

訓練は、家族四人が乗ったゴムボートが転覆し、一人が浅瀬に取り残され、一人が行方不明になったとの想定で開始しました。救助ボートで現場周辺を捜索し、ダイバーが水深約三メートルの川底で行方不明者に見立



救助に向かう水難救助隊



行方不明者に見立てた人形を引き揚げる救助隊

てた人形を発見すると、ボートに引き揚げる応急処置をしながら迅速に救急車に搬送しました。

指揮を行った黒川喜信水難救助隊長は「今後とも隣接地域での連携を深め、地域の安心・安全に努めていきたい」と述べていました。（高橋直通）

津城クリーン大作戦

去る、七月二十六日（日）に津城クリーン作戦が実施され、ボランティアとして津市消防本部や消防署から六十七人の職員が参加しました。お城の城壁を救助隊員が降下しながら除草作業を実施。また、ボート等を使用して公園内の清掃作業を約三時間にわたり行いました。

参加した消防職員は「夏休みに入り、公園を訪れる地域の方や観光客の皆様を美しく迎えられるれば」と述べていました。（松本淳）



降下しながら除草作業を行う救助隊

三重県防災航空隊との連携を強化

三重県防災航空隊が主催で、県内消防職員を対象にした実践型連携訓練が七月十三日（月）津市雲出鋼管町の防災航空隊基地で開催されました。津市消防本部からは二人の職員が参加し、消防職員と防災航空隊員の連携強化と実践的な救出要領について訓練を実施しました。

ヘリ格納庫では、救助資器材の取扱要領や離着陸時の手信号での誘導手順、無線誘導要領な

などを実施しました。実機訓練では、気象状況、飛行障害物状況などの地上支援交信、手信号による離着陸誘導や航空隊員の介添えによる降下訓練など、実践さながらの訓練が行われ、初めてヘリに搭乗した消防職員にとつては緊張の中での訓練となりました。

山林火災や山岳事故では、消火・救出活動など非常に困難となり、防災航空隊と連携した活動が必要になります。参加した消防職員は、今回の研修を通じ、防災ヘリの特性を把握することにより、消防隊と航空隊の連携強化に努めていきたい」と述べていました。（吉田茂）



ヘリから降下する消防隊員と航空隊員

かもしれない運転術を学ぶ

八月二日(日)メッセウイングみえ(津市北河路町)で津市津消防団の夏期訓練の一環として、津警察署交通第一課長黒宮勇一郎氏を講師として招き、県内の交通事故の発生状況や事故の衝突時の衝撃について、また緊急自動車の概要と走行時の注意事項等の講演会が開催されました。

この講演会は、各分団で機関員として指名されている団員など四十一人が出席し、災害出動時における緊急走行や普段の自動車の運転について終始熱心に受講し、交通事故の恐ろしさを再認識していました。参加した団員は、「この講習会を機に、今後の事故防止と安全運転励行に、しっかりと取り組みたい」と話していました。(伊藤勇希)



熱心に話を聞く消防団員

中学生が心肺蘇生を学ぶ

津市北消防署河芸分署は、七月八日から十日までの三日間、津市立朝陽中学校で普通救命講習を実施しました。

これは平成十二年から河芸町地域で救命意識の啓発を図ることを目的に始まり、現在も継続して行われています。今年も百七十八人の生徒が参加し、講習中は熱心に救急救命士の講義に耳を傾け、真剣に心肺蘇生法及びAED(自動体外式除細動器)の取扱いに取り組んでいました。

講習後、担当された兼子ひろみ教諭は「初めて知った事が多く、いざという時、今回知り得た知識、技能を生かして欲しい」と話していました。また、参加した生徒は「初めは戸惑いましたが、万一の際には今日習った事を思い出し、勇気を出して行動します」と感想を述べていました。(笹村晶紀)



ハイブリット車研修

環境意識の高まりや原油高を背景に、ハイブリット車の急速な普及が注目されています。このことに伴い、津市北消防署では改めて最新ハイブリット車の機能を習得し、緊急時の安全対策と救助手順を確認するため研修会を実施しました。

研修会では、三重トヨペット株式会社から講師を迎え、新旧のハイブリット車二台を使用し、「ハイブリット車の特性」や「感電防止対策」など、消火要領のほか、絶縁手袋と安全靴着用の徹底についても説明がありました。

各消防署から参加した署員からは「ハイブリット車の構造理解や被害様相イメージ(初動体制)について理解することができた。



一生懸命に胸骨圧迫を行う中学生

今後の消防活動に役立てたい」などの感想を述べていました。(吉田茂)

エレベーター

閉じ込めから救出

三重県消防学校と三重県消防長会の共催で、六月二十三日(火)に津市消防本部の庁舎で開催されました。

平成十七年七月二十三日、千葉県北西部を震源とする地震において多数の人がエレベーターに閉じ込められました。このことから、当地方は特に東海・東南海・南海地震の発生が危くされているため、社団法人日本エレベーター



電気系統の説明を受ける消防職員

協会から二人の講師を招き、県内十五消防本部から四十五人が参加しました。

研修ではエレベーターの仕組みから、実際に扉の開閉や、救出要領等を確認しました。参加者は万一の際にも即時対応できるように真剣に取り組んでいました。(高橋直通)



講師の説明を聞く消防職員

全国優良消防職員を受賞

財団法人全国消防協会は八月十九日(水)に神奈川県横浜市で平成二十一年度全国優良消防職員表彰式を行い、津市中消防署中署の鳴海正消防司令補が表彰されました。この賞は全国約十五万人の消防職員の中から、多年にわたり消防業務に精励し、特に成績優秀な消防職員を表彰するものです。

今回受賞した鳴海消防司令補は、「上司の指導や同僚からの支援

のためものです。この表彰の名に恥じないように、さらに消防力の向上に努めたい」と述べていました。(高橋直通)



消防長から表彰状を受け取る鳴海消防司令補

急流河川で救助訓練

八月七日(金)津市久居消防署の急流救助訓練を雲出川(津市一志町高野沈下橋付近)で実施しました。

近年のレジャーブームやゲリラ豪雨等により、河川水難事故が全国的に多発しており、河川の救助技術の確認のため行ったものです。

この訓練は、河川の構造や特性を十分に理解する必要があり、急流救助の専門的な知識を有する職員の指導により、基本泳法、スローバック救助、浅瀬横断救助などを実施しました。参加した隊員は、「速い川の流

れでは膝までの深さでも簡単に流される。万一の際、安全に救助活動が行えるよう今後も訓練に取り組んでいきたい」と述べていました。(高橋直通)



救命浮き輪を投げる



浅瀬を横断し救助に向かう

中国人研修生が防火訓練

八月五日(水)、安濃町市内の工場に技術研修のため中国江蘇省から来日している研修生二十人が津市中消防署安濃分遣所を訪れました。

年齢一八歳から二八歳の研修生は、日本での研修の一環として、滞在中の三年間を安全に生活するため、火災や地震の恐ろしさや対処方法、水消火器を使用した取扱訓練や、中国語の通報マニュアルを片手に、実際に一一九番に通報する通報訓練を介して防火の話や、火災予防

について終始熱心に聞いていました。(吉田健)



消火器の取り扱いを受ける研修生

デージー分団が訓練展示に向け特訓中

十月二十二日(木)に横浜市消防訓練センターで開催される第十九回全国女性消防操法大会において、津市津消防団デージー分団が、消防団多機能型消防車(平成十九年度に財団法人日本消防協会から交付)を使用した訓練展示を披露することが決まり、デージー分団の団員は訓練展示に向けて訓練に励んでいます。これは日頃から消防団多機能型消防車の点検手入れや資機材の取り扱いなどを女性消防団員で実施していることや、平成二十年

度に三重県消防学校で開催された三重県消防操法大会において、消防団多機能型消防車に積載されている資機材を使用した取扱訓練を披露したことによる実績が認められたものです。

櫻川分団長は、「女性消防団員による消防団多機能型消防車の訓練展示を披露する機会を得ることができ光栄に思います。今後、このような実働的な訓練が全国の女性消防団員に普及するきっかけとなることを期待しています」と意気込みを語っており、デージー分団の団員は、交通事故や大規模地震の発生を想定し、横浜での訓練展示に向け日々訓練を行っています。(駒田竜司)



扉を開放する団員



資機材の点検を行う

マジックショーで

防火呼びかけ!

五月二十四日(日)津市香良洲町高砂地内の香良洲公園で、ふれあいのかおり渚のフェスティバルが開催されました。

津市中消防署香良洲分遣所からは地震体験車による体験乗車、幼児を対象に輪投げや消防自動車の展示をしたほか、香良洲分遣所員の山田昌司消防士によるマジックショーで、火災予防を呼びかけました。

大きなトランプを使ったマジックや、絵本の中に描かれた飴が出てくるマジックなど、プロ顔負けのサロンマジックに見ていた子供たちは目を丸くしていました。(高山義則)



手品を披露する山田消防士

ヨットハーバーで水難訓練

津市中消防署中署では、七月一日(水)水のシーズンを前に万一の事故に備えて津市柳山津興の津ヨットハーバーで水難救助訓練を実施しました。

当地域は海に面しており、毎年多くの水難事故が発生するため、各種水難救助事故を想定し、中署員十二人が、救助工作車のクレーンや徒手(手作業)によるトラックから水面への救命ボートの着水訓練に始まり、救命ボートの操船・操舵訓練、溺者救助訓練等の水難救助における基本を確認しました。(櫻井善信)



クレーンでボートを降ろす救助隊



溺れた人を救助する隊員

海の家で普通救命講習

海水浴場における事故に備えて、御殿場海水浴場の監視人や海の家関係者と、管轄する津警察

署岩田橋交番の警察官六人を含む十九人により、七月三十日(木)御殿場海岸の海の家で普通救命講習が開催されました。

今回参加した海を家の経営者は「海水浴客の方の、もしもの時のために昨年からはあまり難しいものではないのですが、忘れないよう毎年受講していきたいと思っています」と話していました。(藤田猛美)



心肺蘇生を学ぶ海を家の経営者

稲葉園夏祭り

八月一日(日)に稲葉特別支援養護学校(津市稲葉町上野)で夏祭りがあり、津市消防音楽隊も参加しました。

消防音楽隊の演奏会では曲の合間に、夏休み中のレジャーで水の事故が多発する時期であることから、ライフジャケットの必要性や着用方法、水の事故に関する講話が行われました。また、演奏時には学生達による崖の上のポニョの振り付けや手拍子加わり、アットホームな雰囲気でも楽しい演奏会となりました。
(岡珠理)



音楽隊の演奏にあわせて踊る

小学生が消防体験

七月八日(水)、津市立成美小学校(津市久居新町)の四年生の児童を対象に、津市久居消防団第四分団が消防訓練を行いました。

この訓練は社会見学の一環として平成八年から始まり、今年で十三年目になります。訓練は

小型ポンプによる放水体験や、地震体験車に乗って震災の恐ろしさを学んでいました。
参加した児童は、「ホースがとても重たかった」、「地震が起きても落ち着いて行動したい」と感想を述べていました。
指導に当たった松下浩己分団長は、「消防団活動に関心を持ってもらい、将来の地域防災の担い手として活躍して欲しい」と語っていました。(高橋直通)



消防団員と一緒に放水する小学生

防火管理者資格講習会を開催

七月八日から十日に三重県総合文化センター(津市一身田上津部田)で、防火管理者資格取得講習会が開催されました。

一定の規模以上の建物等(防火対象物)には、防火管理者と

呼ばれる、火災を未然に防ぎ、火災が発生したときには、最小限に被害を留めるように、防火管理を行う人を選任しなければなりません。

講習会は、屋内での講義、屋外で一九番通報、消火器取扱訓練、屋内消火栓取扱訓練を実施しました。

参加した受講生からは「自分の事業所は自分たちで守るという意識が芽生えました。従業員全員で防火に取り組んでいきたいです」と頼もしい感想をいただきました。(田村公一)



熱心に講習を聞く受講生

津市防火協会

新任者研修を実施

津市防火協会は、津市内の約四八〇の事業所等で構成される

組織で、防火思想の普及高揚を図り、防災啓発等の活動を行っています。

六月二十四日(水)に、この防火協会の新任者研修会が行われました。午前中は三時間の普通救命講習を受講し、午後からはとても暑いなか、屋外で消火器の取扱い、煙体験ハウスからの避難・救出、屋内消火栓の取扱訓練に汗を流しながら、真剣に取り組んでいました。(田村公一)



煙体験ハウスで避難する参加者





若き消防士たちの熱い夏！
障害突破チーム



ロープブリッジ救出チーム

第三八回消防救助技術

東海地区指導会に出場

東海地区の消防隊員が救助技術の安全性、確実性、迅速性を競い合う消防救助技術東海地区指導会が七月三十日(木)、三重県消防学校(鈴鹿市石薬師町)で開催されました。津市消防本部からは陸上の部に障害突破(中消防署西分署)とロープブリッジ救出(久居消防署久居署)が出場しました。

大会は真夏の強い日差しが照りつける中、名古屋市消防局の小西富夫消防局長が「平素の訓練成果をいかんなく発揮し、地域住民のため救助技術の向上に努めていただきたい」と訓示を述べ始めました。出場隊員たちは日頃培った訓練の成果を発揮すべく、多彩な技術を披露していました。



障害突破隊員



出隊員
ロープブリッジ救出

今後隊員たちは、この指導会を通じて養った救助技術、知識、体力そしてチームワークをいつ起こるか分からない災害現場で発揮できるように日々訓練に励んでいます。(高橋直通)

やったぞ！ 日本一

七月二十六日(日)に神奈川県藤沢市で開催された「第二十七回全日本マスターズウエイトリフティング選手権」の四十代クラス(一〇五キロ級)に津市北消防署河芸分署の水谷一人消防士長が出場し、見事優勝を果たしました。水谷消防士長は「非番日や休日に練習に励み、世界大会でメダルを獲得できるような頑張りたいです」と意欲を燃やしています。(横山博)



日本チャンピオンに輝いた水谷消防士

トピックス

災害速報 馬を救出せよ！

「馬の救助が入るぞ」という署員からの声が車庫内に響き渡った。「う、馬？」 普段聞き慣れない言葉に思わず声が出た。よくテレビで犬や猫の救助は放送されていますが、馬の救助は初めてで全く想像のつかないものでした。出場途上、無線で「馬が水路に落ちて出られなくなっている模様」との情報が入った。「馬の大きさは？」 「水路の深さは？」 と状況を思い浮かべながら救助工作車を走らせた。

現場付近に到着すると乗馬クラブの飼育員が「こちらです」と駆け寄ってきた。リヤカーに資機材を乗せ、人だかりができている所まで走っていくと、五〇〇キログラムはあるうかという馬が、水路にすっぽりと転落しているではないか。うかつに近づくと暴れて危険なため、馬の顔色をうかがいながら、救出活動に取り掛かった。とにかく少しでも水路から上げなければと思い、恐る恐る馬の腰部にエアージャッキを入れた途端、バタバタと足をばたつかせ

る。みな一斉に避難。なんとか飼育員と協力しながらエアージャッキを入れ膨らませると腰部が浮きスツと立ち上がった。救出成功！馬は大きな怪我もなく元気に走り回っていました。「飼い主にとつては馬も貴重な命であり財産。無事救出できて本当に良かった。」と帰りの車中みなで成功をたたえあいました。消防だけにホースは大切ですね。(松田高志)



溝に転落した馬



元気に走り出した馬

カメラアングル



六月十二日(金)に行われた水難救助隊員指名式



八月九日(日)津市一志消防団夏期訓練の様相

主な行事予定

- 十月十五日(木) 職場防災競技会(メッセウイングみえ)
- 十一月十五日(日) 危険物取扱者試験(高田短期大学)
- 十一月十八日(水) 二十(金) 防火管理者講習会(三重県総合文化センター)
- 十一月二十三日(月) 津市総合防災訓練(津競艇場西駐車場)

音楽隊派遣演奏予定

- 十月十八日(日) 栗葉地区敬老会
- 十一月八日(日) 一志町ふれあい祭り
- 十一月十五日(日) 老健あのおぼかばか祭り
- 十一月二十一日(土) 新町フェスタ

ご家庭に住宅火災警報器を設置しましょう！

消防法の一部改正及び火災予防条例の改正により、平成20年6月から住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。



～平成21年8月までの災害～
火災 69件(83件)
救急 7524件(7603件)
救助 105件(93件)
 ()内は前年同期

編集後記

大正十二年九月一日、神奈川県相模湾沖で発生したマグニチュード七・九の地震は関東一円に甚大な被害を与え、死者、行方不明者は十万人以上にのぼりました。のちに関東大震災と呼ばれ、今日の地震防災の教訓となり、九月一日は「防災の日」と定められました。そんな防災の日を目前に八月十一日の早朝、突然の揺れで跳び起きた人も多いと思います。静岡県では震度六弱を記録し、高速道路が寸断されるなどの被害が出ました。しかし震災対策の先進県である静岡県は耐震化が進んでいるなど、一般住宅では被害が最小限におさえられたとも言われています。

非常持ち出し袋は準備していますか？ タンスや食器棚は固定されていますか？ この機会にもう一度震災対策を確認してみたいかがでしょうか。(高橋直通)